

第17回

住宅課題賞 2017

建築系大学住宅課題優秀作品展

JUTAKU KADAI
RESIDENTIAL
STUDIO PROJECT
AWARD 2017



一般社団法人

東京建築士会
TOKYO SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は17回目を迎えましたが、年々参加大学も増え、本年は37大学48学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クワッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2017年11月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品(作成時)とする。

課題作品は、平成28年9月(前年後期)以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品(図面及び模型)両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版(縦841mm ×横594mm)縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。

大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日時】

2017年11月25日(土) 13:00～17:00

【会場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審査員】

審査員長：植田 実(編集者)

審査員：小西 泰孝(武蔵野美術大学造形学部建築学科教授／小西泰孝建築構造設計)

中川 エリカ(中川エリカ建築設計事務所)

藤村 龍至(東京藝術大学美術学部建築科准教授／RFA)

前田 圭介(UID)

司会進行：城戸崎 和佐(京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科教授／城戸崎和佐建築設計事務所)

[住宅課題賞 2017] 参加大学 37 大学／48 学科

- | | |
|--|---|
| 01.宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース | 25.東京理科大学 工学部第一部 建築学科 |
| 02.神奈川大学 工学部 建築学科 建築デザインコース | 26.東京理科大学 工学部第二部 建築学科 |
| 03.関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース | 27.東京理科大学 理工学部 建築学科 |
| 04.共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース | 28.東洋大学 理工学部 建築学科 |
| 05.慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科 | 29.日本大学 芸術学部 デザイン学科 |
| 06.工学院大学 建築学部 建築学科 | 30.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース |
| 07.工学院大学 建築学部 建築デザイン学科 | 31.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース |
| 08.工学院大学 建築学部 まちづくり学科 | 32.日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース |
| 09.国土館大学 理工学部 理工学科 建築学系 | 33.日本大学 理工学部 建築学科 |
| 10.駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース | 34.日本大学 理工学部 海洋建築工学科 |
| 11.芝浦工業大学 工学部 建築学科 | 35.日本工業大学 工学部 建築学科 |
| 12.首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース | 36.日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科 |
| 13.昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース | 37.日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻 |
| 14.女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 | 38.文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース |
| 15.多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科 インテリアデザインコース | 39.法政大学 デザイン工学部 建築学科 |
| 16.千葉大学 工学部 都市環境システム学科 | 40.前橋工科大学 工学部 建築学科 |
| 17.千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース | 41.前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科 |
| 18.筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 | 42.武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科 |
| 19.東海大学 工学部 建築学科 | 43.武蔵野美術大学 造形学部 建築学科 |
| 20.東京大学 工学部 建築学科 | 44.明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース |
| 21.東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科 | 45.明治大学 理工学部 建築学科 |
| 22.東京藝術大学 美術学部 建築科 | 46.ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース |
| 23.東京電機大学 未来科学部 建築学科 | 47.横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP |
| 24.東京都市大学 工学部 建築学科 | 48.早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科 |

〈住宅課題賞 入選作品〉



01 集合住宅

地方都市の中心市街地にある本敷地は、住民主体のイベントが盛んで、クリエイティブでおしゃれな雰囲気の人々や店舗が集まるなど、場所の価値が見直されてきている。この集合住宅は、通行人や住民が行き来し、溜まれる、川の景観を生かした「都市のcommonsペース」となる中庭を内包する。また、変わり続ける時代や人々にも対応できるような、店舗一体型のスケルトン住宅を提案する。



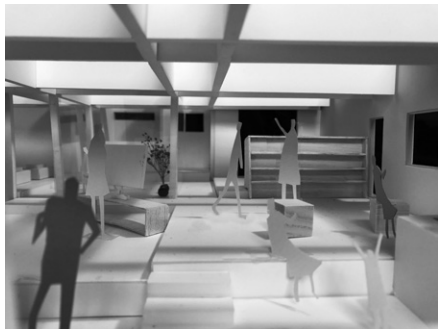
カレロ 友希恵 (かれろ ゆきえ) 宇都宮大学

工学部 建設学科 建築学コース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:大嶽 陽徳

指導教員名:若松 均



02 Rural House —地域に開かれたスペースをもつ住宅—

RURALとURBANの混合するこの土地で、地域へと活動を広げられるよう南側にシェアスペースをもつこの家は、住宅としての役割を失うことなく奥に進むにつれプライベートな空間へと変化していく。家族の繋がりを感じながら、それぞれの居場所ができるよう梁とレベル差で空間を分け、梁をくぐるとひとつの場が現れる。家族の気配を感じつつ、どこか仕切られているような住宅を提案する。



向 咲重 (むかい さきえ) 神奈川大学

工学部 建築学科 建築デザインコース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山家 京子 指導教員名:山家 京子、石田 敏明、吉岡 寛之、
田野 耕平、猪熊 純、アリソン 理恵



03 都市／住宅

私たちは、既にある建物、他人から影響を受けながら生活している。住人である2人の個々の玄関をくぐると、やわらかな曲面や階段室が自分の居住スペースをつくっている。しかし、それらは、自分以外の人の住まい方に影響され、また、影響を与えている。黄金町という町で、空間を分け合うようにして成り立つこの住宅は、ここでき存在することはできない。



菅野 楓 (すがの かえで) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:粕谷 敦司

指導教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹



04 コミュニティスペース『ひとつをつなぐばしょ』がある住まい

ここは桜並木の緑道が続く緑豊かな場所。そんな敷地を生かして桜が見えるブックカフェ兼住宅を設計した。ここに住むのは読書好きな夫婦二人。小さな箱のようなブリックスペースを点在させることで時としてブックカフェ全体がプライベートスペースに変化する。内部にも桜を取り入れ、外部と連続性を持たせて人々を引き寄せた。老若男女が集まり、つながる自由な空間となる。



新道 香織 (しんどう かおり) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:工藤 良子

指導教員名:工藤 良子



05 他者と暮らす住宅

キャンパス隣地に建つ学生と教員のためのタワードミトリ。複数のボックスを積み重ね、オーバーラップした壁や天井を抜くことで建築全体がワンルームとみなせる空間を作った。遠心的に配置したスキップフロアをたどって室内と屋外2本の動線が螺旋状に屋上まで続き、2つを自由に行き来しながら回遊できる。螺旋形状をランドスケープにも反映させ建築と地形が調和するデザインを目指した。



杉本 晴子 (すぎもと はるこ) 慶應義塾大学

環境情報学部 環境情報学科 / 2年

課題出題時学年: 1年

出題教員名: 松川 昌平

指導教員名: 松川 昌平、鳴川 肇、菊池 豊栄



06 外のある家

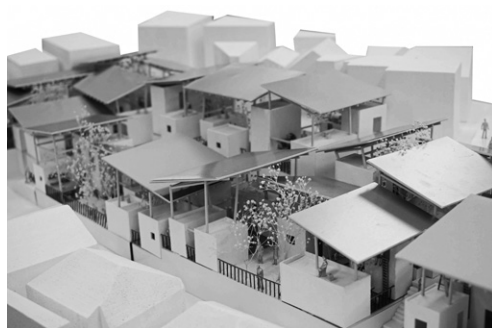
普段、家の中に居ると自然を感じる機会は少ない。だが、家全体がルーバーとガラスで囲まれていたらどうだろうか。自然である光、風、雨がその隙間を通り、家の中に入ってくるので、外を感じる場面が増えるのではないかと考えた。また、光とルーバーにより、内と外には影が生み出される。季節や時間によって様々に変化するこのルーバーの影が更に外の様子を内に教えてくれる存在となる。



鈴木 展子 (すずき のぶこ) 工学院大学

建築学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年 出題教員名: 富永 祥子 指導教員名: 木下 庸子、富永 祥子、小林 直弘、大塚 篤、阿部 俊彦、今村 幹、梅中 美緒、高呂 卓志、高塚 章夫、細谷 功、松葉 邦彦、中道 淳



07 都市居住(都市施設を併設させた新しい都市のかたち)

水滴がくっついたり離れたりするように3つの広場がくっついたり離れたりして、ある時は一住戸に、ある時は集合住宅になるような住まいを提案する。四谷三丁目駅近くの須賀町はお寺が多い住宅密集地である。窪地の北斜面に建つ集合住宅の広場は、お寺のヴォイドに賑やかさを分散する。戸建てと集合住宅2つの性質を持つこの場所は、現代の暮らし方に寄り添った新しい暮らしの場所である。



日下 あすか (くさか あすか) 工学院大学

建築学部 建築デザイン学科 / 4年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 木下 庸子 指導教員名: 木下 庸子、西森 隼男、藤木 隆明、星 卓志、Kearney Michael、金箱 温春、押尾 章治、沢瀬 学



08 水辺に建つクリエイターを目指す若者のドミトリ

このドミトリは中庭・回廊・箱部屋の3つの構成でできている。回廊は部屋への動線空間でもあり、住人が集まり毎日顔を合わせる場となる。回廊を「巡る」ことで壁面の棚の作品や本だけでなく、歩を進めるごとに変わる景色、行く先々で出会う住人など様々なものに「巡り合う」。そこからインスピレーションや刺激を受け、クリエイターにとって将来の糧となるものを得ることができる。



坂上 直子 (さかみ なおこ) 工学院大学

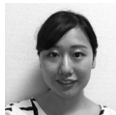
建築学部 まちづくり学科 / 2年

課題出題時学年: 2年 出題教員名: 木下 庸子 指導教員名: 木下 庸子、富永 祥子、小林 直弘、大塚 篤、阿部 俊彦、今村 幹、梅中 美緒、高呂 卓志、高塚 章夫、細谷 功、松葉 邦彦、中道 淳



09 「ギャラリーのある家」の設計

自然豊かな緑道を活かす。緑道の木と敷地の形に馴染むようにできた1枚の大きな屋根はギャラリーと住宅を繋ぎ、緑道を通る人との交流の場を設けた。また5人の為のリビングは各部屋の中心に設け、家族が孤立しないように設計した。また、ギャラリーとも繋がることで幅広い交流も生む。緑道の緑を取り入れ都会に居つつ自然を感じる事ができる気持ちの良い住宅を設計する。



館 優里菜 (たち ゆりな) 国士舘大学

理工学部 理工学科 建築学系 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:郡 裕美、須川 哲也、鈴木 丈晴、高階 澄人、都 留理子、国広 ジョージ 指導教員名:高階 澄人



11 様々な変化する生活シーンを考えた住宅

住宅街の穴。住宅街という人の目に常さらされてしまう空間でもプライベートを確保でき、区画の中に小さなコミュニティを形成できる住宅。穴のように埋まった中庭に、半地下のテラス、それに対して区画内の緑道に開いた縁側が小さなコミュニティを作る。プライベートな庭とコモンな縁側が様々な生活のスタイルに合わせて機能する。



畑野 晃平 (はたの こうへい) 芝浦工業大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:郷田 修身
指導教員名:功刀 強



10 ダガヤサンドウに住むとしたら

人が持つ個性のように、住宅にも住人によって変わる表情がある。密集していても自分の"すみか"を持つ。"すみか"の中にすき間を作り、各々の表情を生み出す。オモテの顔を見せ共有することで、住人の暮らしが見えてくる。そして、住人がそっとくつろぐためのウラの顔も作り出す。都心に人が集まって住むことで生まれる12の異なる表情が、新たな集合住宅としての顔を作っていく。



田中 くるみ (たなか くるみ) 駒沢女子大学

人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース / 3年

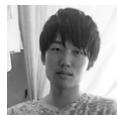
課題出題時学年:3年

出題教員名:太田 清一、茂木 弥生子
指導教員名:太田 清一、茂木 弥生子



12 名作から考える

アドルフ・ロースにより、ミュラー邸の設計に用いられた設計手法:「ラウムプラン」。本設計は、その立体的合理性を追求するゾーニングプログラムの可能性を現代住宅に応用した、職住一体型住宅の提案である。「立体的な距離感」をもってプライベート性の調整を行い、螺旋形の動線によって「住宅のつながり」・「住居と職場のつながり」・「家族のつながり」を結びつける。

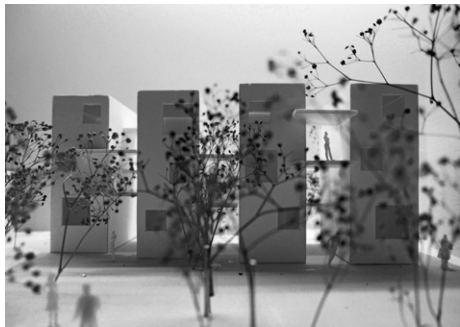


美代 純平 (みしろ じゅんぺい) 首都大学東京

都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:一之瀬 雅之、猪熊 純、富永 大毅、宮内 義孝
指導教員名:宮内 義孝



13 「私たちの長屋」―三宿に暮らす―

ただ壁を共有するだけの関係ではなく、住戸と住戸の間に、住人同士、外部空間、街といったそれぞれの中間領域となるような空間をつくる。共有部を持たない長屋において、間の空間は人々が集まる場となり、プライベートを確保しながらもパブリックな空間をもつ住居となる。街のなかで一軒の長屋に大きな家族としてコミュニティをつくって住む新しい暮らし方を提案する。



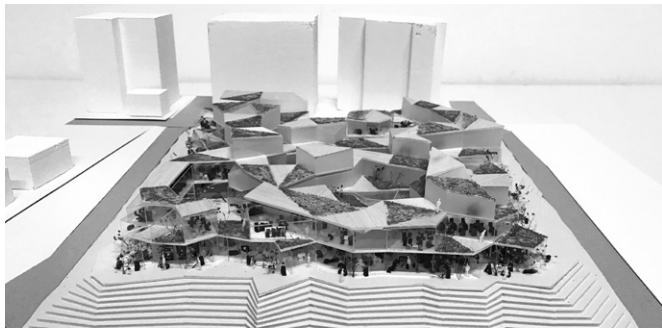
杉本 萌 (すぎもと もえ) 昭和女子大学

生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:高橋 堅、手嶋 保、桒澤 麻利、杉浦 久子

指導教員名:高橋 堅



14 集合住宅計画・景観デザイン

図書館やカフェなどと集合住宅の複合施設を計画。その結果パブリックな性格の場所ができるため、プライバシーへの配慮が必要となる。そこで居住エリアをSNSからみられる人々の心理を参考に「見る」「見られる」について住居を3タイプにわけ計画し、それらを敷地の外側から内側にグラデーションのように配置することで壁を作らず連続性のある計画を実現させた。



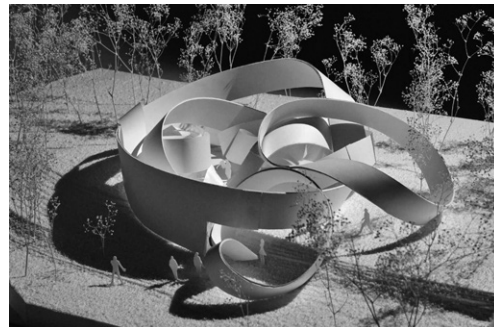
角田 梨菜 (つのだりな) 女子美術大学

芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:飯村 和道

指導教員名:飯村 和道、下田 倫子



15 風景の中の住空間 〜一家がくつろげる週末住宅〜

建築構造設計家の一家を仮想のクライアントとし、家族で週末を過ごすための小さな家とその周辺環境を「メビウスの帯」をモチーフに設定しデザインした。メビウスの帯の特徴であるひねりや曲線を利用し、ドアを設置せずに視線と動線を考え、帯を建築内外を繋げる壁や屋根として用いることで、開放的な空間からシームレスに繋がるプライベート空間までを設計した。



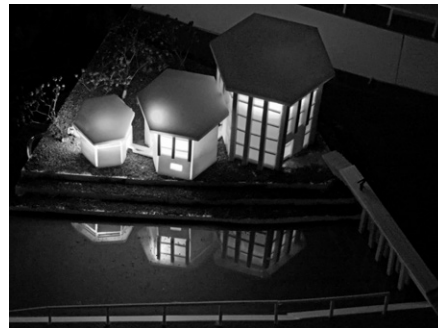
小林 亮太 (こばやしりょうた) 多摩美術大学

美術学部 環境デザイン学科 インテリアデザインコース / 2年

課題出題時学年:1年

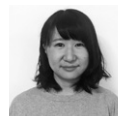
出題教員名:田淵 諭

指導教員名:田淵 諭



16 MAD City House

松戸駅から遠ざかった坂川沿いは静かで暗く、歩く人に不安を与える。そんな土地に優しく灯る安心の光を提供できたら…。一方坂川は、市民の努力によって年々きれいになってきた川であり、その感謝の気持ちを示すために「坂川清流灯籠まつり」が毎年行われている。本提案では二つの土地の特徴を生かし、住宅に「灯籠」を取り入れながら、坂川沿いをあたたかい空間にしていく。



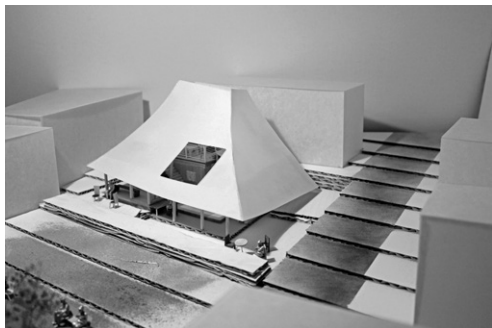
桐生 慎子 (きりゅうまこ) 千葉大学

工学部 都市環境システム学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙

指導教員名:峯田 建、船木 幸子、森永 良丙



17 「流れ」のある住宅設計

南側に公園があり、東西に延びた敷地には様々な流れがある。季節、空気、時間、人、そんな流れに対して屋根を開き、光を落とし、軒下を設け、余白を与える。屋根に壁面や堀の機能を持たせ、住空間を斜に構えることで近隣住人や庭を明るく照らしてゆく。この家の作る境界は、様々な「流れ」を取り入れ、きっかけを与え、やがて付かず離れずの緩やかな関係を築いてゆく。



水沢 綸志 (みずさわいとし) 千葉工業大学

工学部 建築都市環境学科 建築設計コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:遠藤 政樹 指導教員名:石原 健也、今村 創平、遠藤 政樹、佐々木 珠恵、多田 修二、千葉 貴司



19 ヤネのあるイエ・リツメンのないイエ

「立面のない家」から周辺の環境と一体化した住宅を造ろうと考えた。そこで周りに階数の異なる家が建ち並ぶ敷地と仮定し、それぞれの家の屋根の形から成り立つ住宅を造った。形の違う屋根を重ねることで空間ができ、さらに各屋根の柱の本数を変えることで様々な空間を造ることが出来た。また、1階を住人や地域の方が自由に使えるコミュニティの場とし、より周辺との一体化を求めた。



窪田 帆南 (くぼた ほなみ) 東海大学

工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:吉松 秀樹 指導教員名:吉松 秀樹、山崎 俊裕、渡邊 研司、古見 良真、山縣 洋、河内 一泰、田島 芳竹、白子 秀隆、山下 貴成、山口 紗由



18 都心の住宅地に建つコンドミニアム

『おうち と すきま の らせん』居住者のための住戸である3つのパターンの「おうち」を、らせんのようにずらしながら繋げた9世帯のための集合住宅。おうちとおうちの間には、「すきま」が生まれ、外部の人を引き入れたり、住んでいる人の暮らしの変化に対応したりする「余白」となる。住んでいるうちに「おうち」から「すきま」に生活の様子が滲み出てくるような集合住宅を提案する。



細坂 桃 (ほそさかもも) 筑波大学

芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:花里 俊廣
指導教員名:花里 俊廣



20 旧公団A団地リノベ計画

集合住宅における個人の専有面積を小さくし、共用部を広くする。専有面積の単位に、団地の躯体の構成単位である6畳を採用。これを反復、過剰に増築し全体を形作る。一棟はリノベーション、南面を増築し個室や屋外空間を作る。新築の棟では6畳のキューブを持ち寄り、その隙間を共用部で繋ぐ。6畳を単位とすることで住戸の多様な形態を実現する。ボラスな集合住宅が、生活を街に開く。

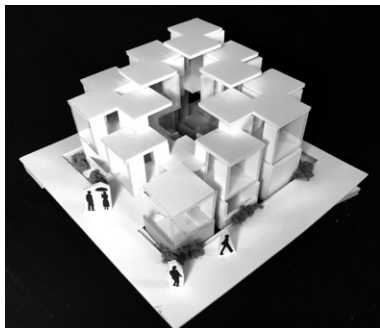


福田 暁子 (ふくだ あきこ) 東京大学

工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:大月 敏雄 指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、井本 佐保里、青木 弘司、海法 圭、能作 淳平、萬代 基介



21 シェアハウス／〇〇が集まって棲む家

ファッションデザイナーが集う家として、「七宝模様」を平面構成に取り入れたシェアハウスです。青山(東京都港区)という指定された立地条件から、お洒落・ファッション・風潮・流行り・時流を連想し、この形に辿りつきました。自分でデザインした服を展示でき、共有できるスペースを設けました。



渡邊 泉 (わたなべ いずみ) 東京家政学院大学

現代生活学部 生活デザイン学科／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:瀬川 康秀

指導教員名:原口 秀昭、瀬川 康秀、前鶴 謙二



22 住宅I

敷地は神奈川県三浦郡葉山町の住宅街。山々に囲まれた高低差の激しい敷地周辺は高い擁壁の上に家々が立ち並び、当敷地も4mの高低差がある擁壁の上に存在していた。この住宅は施主の要望より接骨院としてまた地域の寄り合いの場としても機能することが求められ、一般的な個人住宅より街に開いた立ち方が必要であった。そこで街と擁壁の敷地を紡いでいく、そんな住宅のあり方を模索した。



上林 修司 (かんばやし しゅうじ) 東京藝術大学

美術学部 建築科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:藤村 龍至

指導教員名:藤村 龍至、八島 正年、市川 竜吾



23 集合住宅の設計

集合住宅・ランドスケープ共に「遊ぶ」「学ぶ」「集う」「育む」をベースに考え、それぞれの場を設ける。集合住宅内は、『第二の保育園』を第1のコンセプトとし、子ども同士やおじいちゃんおばあちゃんと遊んだり学んだりする場を設計した。ランドスケープはそれぞれの季節の実や花と触れ合い、植物を育てながら、子どもたちが育ち、大人も学ぶことができるような計画となっている。



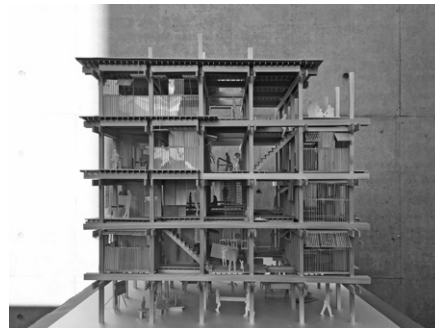
齋藤 美優 (さいとう みゆ) 東京電機大学

未来科学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山田 あすか

指導教員名:中山 薫



24 畳のある集合住宅

居心地を畳む。人の居心地は千差万別であり、時に移ろうものである。行動或いは感情、環境によりそれは揺らぎ、極めて茫漠たる気持ちである。しかし、現代のLDK型プランはそれに柔軟ではない。そこで、惹かれたものが畳である。畳から生じる、身の寸法間隔と可変性によって、住民の居心地と時代の流れに割切な賃貸住宅が畳まれ続ける。



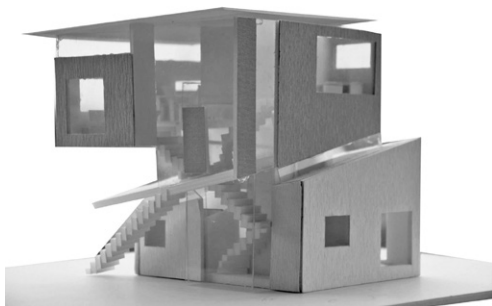
工藤 浩平 (くどう こうへい) 東京都市大学

工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:手塚 貴晴、柏木 穂波、栗田 祥弘、富川 浩史、松井 亮

指導教員名:手塚 貴晴



25 根津に住む

根津の角地に建つ二世帯住宅。地域の輪を広げるため、まずは子供同士の繋がりを大切にしたい。住人である子供と近所に住む子供と一緒に遊び、その様子を祖父母が見守るような暮らしを提案する。この住宅の特徴は一階と二階の間に設けた、床に傾斜を持つ外部空間である。床を斜めに差し込んだことで奥に進むほど天井が低くなり、偶発的に大人の立ち入れない子供のための空間が生まれた。



高橋 和佳奈 (たかはし わかな) 東京理科大学

工学部第一部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 石橋 敦之、薩田 英男、船木 幸子、細矢 仁、峯田 建、熊谷 亮平、岩澤 浩一 指導教員名: 熊谷 亮平



27 都市にたつ戸建て住宅

豊かな住宅はどのような姿なのかをその根本から考え直した。住宅における生活の単位を維持したまま平面を操作することで内部に複雑に外部環境を取り込み多様な生活環境を生み出した。操作は基本的なグリッドを設定すること、そしてそれを段階的に振っていくという2つの操作のみである。過密な都市ならではの様々な要素がこの建築を通過し外部に対しても豊かな環境をもたらすだろう。



奥村 夢大 (おくむら ゆうた) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 垣野 義典
指導教員名: 森 清敏



26 金町の住宅

「適度な距離感」それは現代住宅が外の社会に開いていく為の重要な問題だと思う。商店街の中に建ち三世帯が住むこの家は、切り返した大屋根が生む半公共空間と外から家の奥まで突き抜ける土間が商店街の社会性、賑やかさを家の中に引き込む。しかし家の中で伸びた土間の路地によって部屋は島状に独立、無意識的な境界をつくり引き込んだ外と内、また各世代間に適度な距離感を生み出す。



藤井 和馬 (ふじい かずま) 東京理科大学

工学部第二部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 柏木 まどか、今村 水紀、木島 千嘉、新堀 学、長谷川 祥久、蜂屋 景二、三戸 淳、常山 未央 指導教員名: 三戸 淳



28 複雑さを許容する住宅

ライフスタイル、世代が違う家族。この家族をストレスなく、良い関係を築いていくためにはどうすればよいか。この住宅では、家族を直接的につなげるのではなく、壁・外・吹抜けをうまく操作することで程よい距離感を保てるように設計した。家族同士が無理してかかわることなく良い距離感を保ちながら生活を送ってもらいたい。

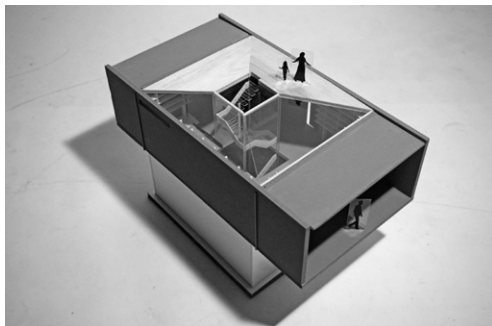


櫻井 優輔 (さくらい ゆうすけ) 東洋大学

理工学部 建築学科 / 3年

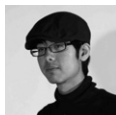
課題出題時学年: 2年

出題教員名: 篠崎 正彦
指導教員名: 篠崎 正彦



29 『私の舎』

自然な光のサイクルとともに活動するアトリエ兼住宅の設計。人は昔から日の出で活動し日の入りで活動を終える。デザインを練る時の他様々な行動でも効率が良いのは日が出ているときに活動することで一日の活動サイクルが日の光に沿っている時である。そこで必要な時間帯に必要な光を取り入れて一定の生活リズムをアシストし自分のスムーズな発想の展開をできるような空間を設計した。



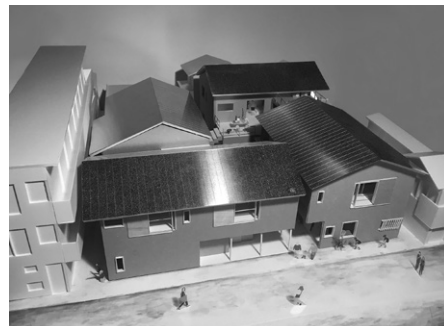
岡本 強 (おかもと つよし) 日本大学

芸術学部 デザイン学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 熊谷 廣己

指導教員名: 熊谷 廣己



31 大学前の大久保に集合住宅を設計する

巡り歩く楽しさをもつまちの構成と、中心になる商店街の活気復活を目指す。計画敷地を一部開放した空間に商店街から道を引き込み、まちと人を繋げる結節点となる場を構想。まち全体のビジョンを軸に、商店街と家、家と小道、共有部と住戸の関係へと考えを広げ、4棟の建物の2階をブリッジで繋ぎ、外部に小道と中庭、2階中心部に全棟を周回できる共有空間をもつ学生アパートを計画する。



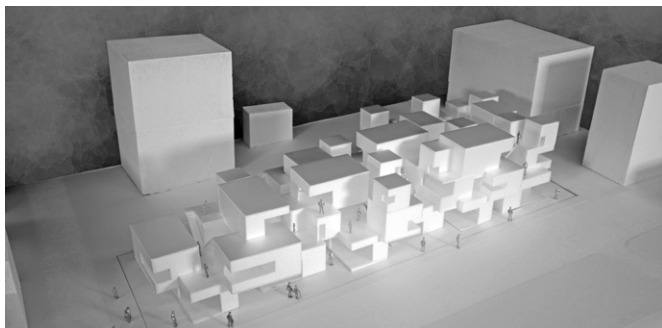
高野 真実 (たかの まみ) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 4年

課題出題時学年: 3年

出題教員名: 泉 幸甫、森山 ちはる

指導教員名: 泉 幸甫、森山 ちはる



30 街に開く集住体 一神楽坂の集合住宅

そこで住宅の機能を分散した集合住宅を提案する。今日の住宅は生活をするための機能をパッケージ化しており、機能的で便利である一方で、閉じた建築になってしまった。居住者が好きな階数、方角の部屋を選ぶことができる。そして部屋を3次元的に行き来することで様々なアクティビティが生まれるのではないか。家から離れ、街に近づく集合住宅。これが私の考える街に開く集住体です。



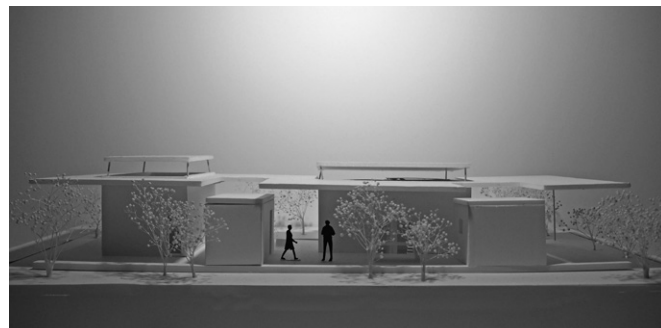
渡邊 健太郎 (わたなべ けんたろう) 日本大学

生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年

課題出題時学年: 3年

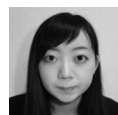
出題教員名: 内村 綾乃

指導教員名: 前田 啓介



32 ○○の住宅

住宅は家族を構成する場であり、個々の活動や安らぎの場でもある。現代の住宅は比較的後者を優先した作られ方がされ、個々が集まって暮らすシェアハウスのようになっている。集合体になることが特別であり、個々になることがスタンダードとしている家族を、家族同士や外部ともつながりやすい関係として再構成するために新しい住まい方を提案する。



堀内 那央 (ほりうち なお) 日本大学

生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 渡辺 康、木下 道郎

指導教員名: 渡辺 康、木下 道郎



33 住宅

自分の部屋で本を読んだり、課題をやったり、ケータイをいじったり…ふと、なぜ部屋に閉じこもっているのだろうと疑問に思った。もっと自由に、家の中を使えたら…。そこで私は、いろんな境界線を使ってその時その気分、その季節によって居場所を変えられる家考えた。日本のうすい境界線は、様々な空間を作り出す。それをふまえ、自分なりのうすい境界線で生み出した空間を提案する。



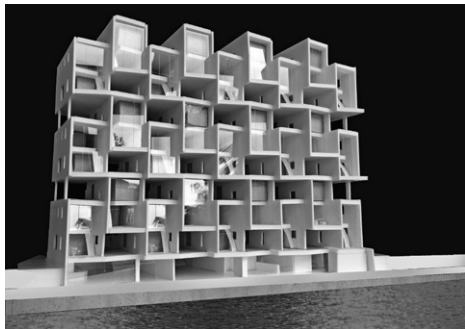
鳥山 亜紗子 (とりやま あさこ) 日本大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

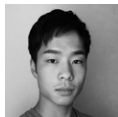
出題教員名: 佐藤 慎也、山中 新太郎

指導教員名: 仲條 雪



34 北十間川の集合住宅 ～美術館と水辺に隣接する集住体

北十間川沿いに建つ27戸の集合住宅。未だ木密地域も残るこの地に一塊のボリュームはそぐわない。そこで水辺の波を抽象化しメジネットのユニットを上下にずらすことで、水平方向の吹き抜けを出現させた。この空間が光や風の取り入れだけでなく、隣人との交流も生み出す。さらに共用部に水辺環境を活かしたアウトドア拠点を設け、周辺地域住民も利用することで街全体を活性化していく。



服部 立 (はっとり たつ) 日本大学

理工学部 海洋建築工学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 筒井 紀博 指導教員名: 内海 智行、小野 和幸、小林 直明、佐藤 浩平、神野 郁也、玉上 貴人、筒井 潤、水野 吉樹



35 賄い付き下宿・再考

人は、独りの方がストレスなく生活できるかもしれない。しかし、それはあまりにも寂しい気がする。人とシェアする事は、他人とのギャップに戸惑いを生むが、そこでは価値観の発見や個人を尊重する気持ちが生まれる。そこで、弁当屋を営む家族と24人の学生が住まう賄い付き下宿を提案する。各部屋の間には、室内と屋外にコモンを設け、学生間での交流が生まれることを期待する。



宮澤 拓磨 (みやざわ たくま) 日本工業大学

工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 小川 次郎、平林 政道

指導教員名: 小川 次郎、平林 政道



36 シェアハウスの設計

敷地がある宮代町では「人と自然がやさしく輝くまち」として農業に力を入れているが、近年ではその担い手が減少している。そこでこのシェアハウスでは、「土間」を「まち」と「畑」をつなげる役割として取り入れた。「土間」で若者と地域の人たちが協力して農業を学び、また「畑」を通じた交流が生まれる。若者たちの住まいが、農業の活性化に向けて「まち」のつながりをつくる場になる。



鳴海 彩乃 (なるみ あやの) 日本工業大学

工学部 生活環境デザイン学科 / 2年

課題出題時学年: 2年

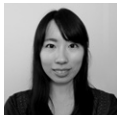
出題教員名: 足立 真、白子 秀隆

指導教員名: 足立 真、白子 秀隆



37 街とくらす、21人のための家

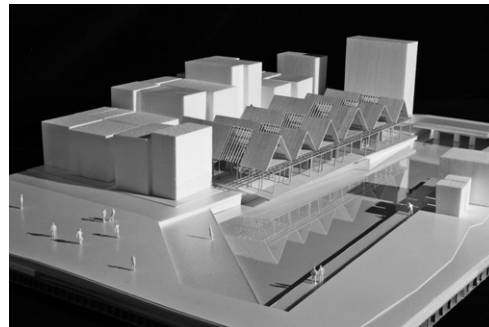
街とくらすための街と住戸との境界のつくり方を提案する。コンクリートの外観とは対照的な木仕上げの内部空間は、21人の住民とその関係者のみ出入りできるシェアスペースである。そこに面する出窓から、新たな人、モノとの出会いが生まれる。中央吹き抜けの大空間は屋上へと抜け、関係者が多様化するにつれてコミュニティの輪が徐々に中から外へ広がっていく様子を建築的にも表現した。



小林 春香 (こばやし はるか) 日本女子大学

家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻・建築デザイン専攻／3年
課題出題時学年:2年

出題教員名:宮 晶子、石川 孝重、東 利恵、定行 まり子、片山 伸也、寶神 尚史
指導教員名:寶神 尚史



39 Tokyo Guest House

佃の都市空間を残しつつ、外国人向けゲストハウスという新たな要素を迎え入れ、街全体を巻き込んだ新しいコミュニティの場を創り出す。佃の町割りや路地空間をプランに取り入れ、また敷地に接する道を敷地内に移設し、路地を再生することでこれらの路地や道をオーナー、ゲスト、地域の人々の新たな交流の場とした。



不破 駿平 (ふわ しゅんぺい) 法政大学

デザイン工学部 建築学科／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:下吹越 武人

指導教員名:下吹越 武人



38 ○○のある低層集合住宅

"何もないこと"を共有するための深閑としたパブリックスペース。不規則な造形と沈黙の中に利用者自身が居場所を見つけ、自分の時間を手に入れる。個人を無理に引き合わせることはせず、その人の望んだ距離感を建築が護る、そこに心地よい無関係が生まれることを期待する。人疲れる社会人、学生達が社会の喧騒を忘れ羽を休めるための小さな非現実空間。足音以外は立てないように。



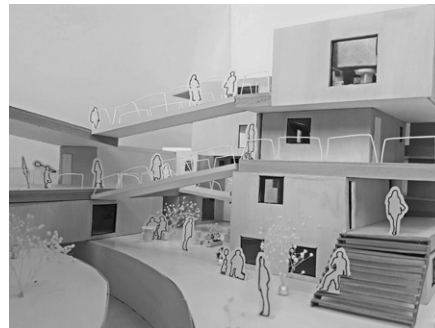
村田 優人 アンジェロ 功一 (むらた ゆうとあんじえろ くいち) 文化学園大学

造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:龍口 元哉

指導教員名:龍口 元哉、久木 章江



40 水路のある低・中層集合住宅の設計

グリーンドーム前橋の北側に位置する風呂川が、南北に横断する敷地。各住戸に入るまでや窓から外を眺めるときなど、日常生活の中で自然を感じながら、暮らしてゆける、集合住宅を提案する。より景色を楽しみながら、通勤帰宅等ができるよう、住戸間や階数はスロープで繋ぐ。上下の関係を曖昧にさせ、回遊する楽しさのある空間をつくりだし、住人同士の交流を生む。



高屋敷 友香 (たかやしき ゆか) 前橋工科大学

工学部 建築学科／4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:石川 恒夫、木島 千嘉、石黒 由紀

指導教員名:石川 恒夫、木島 千嘉、石黒 由紀



41 前橋大学生村 ～集まって住む楽しさのデザイン～

敷地に隣接する前橋工科大学は、住宅地の中にあることから地域の人々が散歩に訪れている。学校というハコの中での様子は、外からでは見ることができず、内と外の明確な境界ができています。内と外、公と私、あっちとこっち…対立するものの境界をあまいにし、人々の繋がりや自由な活動を促したい。



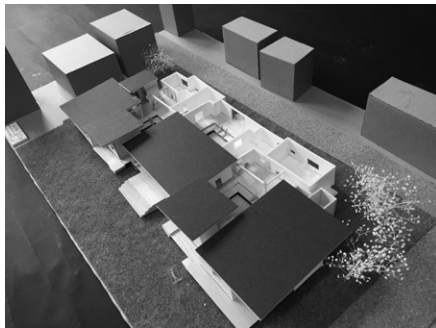
大木 有菜 (おおき ありな) 前橋工科大学

工学部 総合デザイン工学科 / 3年

課題出題時学年:2年

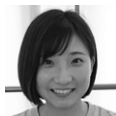
出題教員名:松井 淳、稲見 成能、橋倉 誠

指導教員名:松井 淳、稲見 成能、橋倉 誠



42 働きながら住む10世帯の空間

吉祥寺は様々な年代の人が住む街であり、多くの作品の舞台となってきた。そこで本敷地が新たな舞台となるような計画として、高齢者と作家が共生する集合住宅を提案する。その2組の共生によって高齢者が体験してきた歴史は消えることなく継承される。



秋元 晴奈 (あきもと はるな) 武蔵野大学

工学部 建築デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:3年

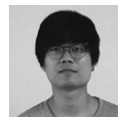
出題教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡、藤野 高志、松島 潤平

指導教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡、藤野 高志、松島 潤平



43 成城プロジェクト —住宅+αの新しい可能性を提案する—

混沌とした都市の中で心身を守る最後の砦が住宅である。本計画ではプロクライマーの夫と、同じくクライミングを趣味に持つ妻二人が暮らす住宅に、クライミングジムを+αとして計画した。コンクリートで囲まれた住宅が内部に孕むのは空を切り取る10mの岩壁だ。住宅内部に展開する世界は、住まい手の希望と成り得るか。



渡邊 和 (わたなべ やまと) 武蔵野美術大学

造形学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:布施 茂

指導教員名:布施 茂、三幣 順一



44 今日の役割を持つ共用住宅(シェアハウス)

シングルマザー世帯、高齢者世帯、単身者世帯、この3種の世帯は社会的弱者とされる。この弱者世帯が何か共通して楽しんで、協力し合えば住みやすい環境が成立するはずである。そこで私は、体を動かせる環境を提案する。この建物の中央には、芝生のミニコートがある。また屋上部分にも芝生があり、体を動かしたりゆっくり心を落ち着かせられる空間が揃っている。



神 友里恵 (じん ゆりえ) 明海大学

不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕



45 目黒川沿いの集合住宅

アーティストが住まうことを想定したアトリエ付き住戸を設計する。「個」を強く建築に反映させ、集合住宅であるにもかかわらず各住戸が全く違うプランとなる。共同テラス、共同アトリエにより生活の一部をつなげることで、強い「個」を確立しながらも一体的な空間を生み出す。アトリエはショップとしても使われ、街を歩く人々を取り込み都市のような集合住宅となる。



大方 利希也 (おおかた ときや) 明治大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 大河内 学

指導教員名: 前田 道雄



46 集合小住宅 ～新しい生活の場を求めて～

かつて城下町として発展し、入り組んだ道が今もなお残っている行田市で、「迷路」をコンセプトにした集合住宅の提案。現代の集合住宅は、プライバシーを重視しすぎた結果、人間関係が閉鎖的になり、すれ違った人が外来者なのかどうかも分からないのが現状である。数多の空間に居住者の視線や動線が迷路の様に交わることで、コミュニティとセキュリティの両方を確立することができる。



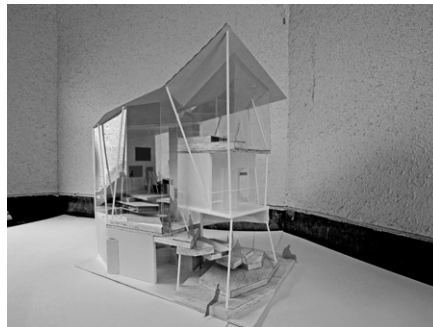
桐淵 玲央 (きりぶちれお) ものつくり大学

技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年

課題出題時学年: 3年

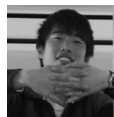
出題教員名: 藤原 成暁

指導教員名: 藤原 成暁



47 「2つある」住宅

住宅の主要な構成要素である階段。一般的に1住宅に1つ設えられる階段の登り道を2つに増やすことで、異なる2つの空間が隣合いつつ各々が独立して存在する。これらを、一方は芸術家のためのプライベートな住空間、他方はギャラリーやレクチャーを通してまちの人びとを巻き込むパブリックな空間として1つの住宅に収めることで、アートを軸に再興する街の新たな顔となるのではないかと考えた。



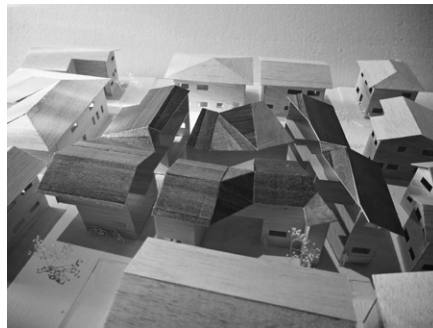
金 俊浩 (きむ じゅんほ) 横浜国立大学

理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名: 仲 俊治

指導教員名: 藤原 徹平、仲 俊治、針谷 將史、御手洗 龍、松井 さやか、山下 真平



48 早稲田のまちに染み出すキャンパスと住まい —Activate Waseda—

木造住宅密集地である西早稲田3丁目には、狭い路地や袋小路が点在し、住宅内部の生活感が、外部の路地的空間にあふれ出している。既存の空間・街並みの「読み換え・書き換え」によって、この街の断片的な風景を住宅に取り込み、戦後日本で普及した「1住宅＝1家族」の住宅モデルを部分的に解体・再構築し、それぞれが住宅の半分を街と共有しているような新しい集合住宅を提案する。



江尻 悠介 (えじり ゆうすけ) 早稲田大学

理工学術院 創造理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年: 2年

出題教員名 / 指導教員名: 入江 正之、佐藤 滋、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、小岩 正樹、藤井 由理、矢口 哲也、渡邊 大志、阿部 俊彦、小林 恵吾、山村 健、斎藤 信吾

第17回 住宅課題賞2017 建築系大学住宅課題優秀作品展

主 催：一般社団法人 東京建築士会
企 画：東京建築士会 事業委員会
後 援：公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
協 賛：ファーマーカステル
特別協賛：株式会社 総合資格
協 力：公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]

企画・編集：鴛海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会

デザイン・制作：株式会社 ケシオン

発 行：一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会

〒104-6204 中央区晴海1-8-12 オフィスタワー Z 棟4F（晴海トリトンスクエア内）

[TEL] 03-3536-7711 [FAX] 03-3536-7712 [E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp

[URL] <http://www.tokyokenchikushikai.or.jp>

© 一般社団法人 東京建築士会 2017

バスルームを自由にデザインする



東京バススタイルの オーダーデザイン ユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、バリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせて、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様の要望に応じてお造りしています

介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



オーダーデザインユニットバス

株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)

TEL: 03-3446-2492 FAX: 03-3446-2493 E-mail: info@t-bath.net

〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階(建物右側の外階段より2階へお上がりください)

[営業時間] 10:30~18:00 [定休日] 日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net

学科試験も設計製図試験も 総合資格学院は「日本一」の合格実績!



平成29年度

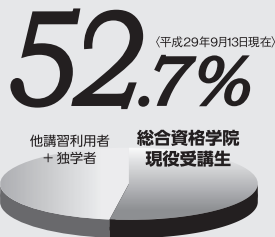
1級建築士

学科試験

全国 | 合格者占有率

全国合格者 4,946名中/
総合資格学院現役受講生 2,607名

全国合格者の
2人に1人以上は
総合資格学院の
現役受講生!



平成24~28年度(過去5年累計)

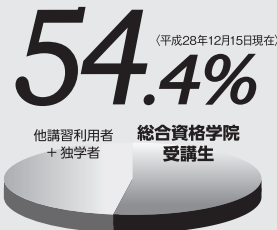
1級建築士

設計製図試験

全国 | 合格者占有率

全国合格者合計19,562名中/
総合資格学院受講生10,636名

総合資格学院に
通えば合格が現実になる!



1級建築士 卒業学校別実績

	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
日本大学	180	90	50.0%
東京理科大学	123	74	60.2%
芝浦工業大学	90	51	56.7%
早稲田大学	81	56	69.1%
近畿大学	69	41	59.4%
神戸大学	65	42	64.6%
九州大学	61	35	57.4%
工学院大学	61	33	54.1%
法政大学	57	34	59.6%
明治大学	52	34	65.4%
京都大学	46	21	45.7%
京都工芸繊維大学	44	24	54.5%
東京都市大学	42	28	66.7%
関西大学	41	28	68.3%
東京大学	40	14	35.0%

	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
大阪工業大学	40	22	55.0%
東海大学	38	26	68.4%
横浜国立大学	37	21	56.8%
名古屋工業大学	36	23	63.9%
千葉大学	36	12	33.3%
北海道大学	34	21	61.8%
東京工業大学	34	25	73.5%
名城大学	34	23	67.6%
千葉大学	34	23	67.6%
首都大学東京	32	19	59.4%
金沢工業大学	31	15	48.4%
神奈川大学	31	16	51.6%
東北大学	31	20	64.5%
東洋大学	29	16	55.2%
広島大学	29	24	82.8%

	卒業 合格者	当学院 受講者数	当学院 受講率
広島工業大学	28	17	60.7%
鹿児島大学	27	17	63.0%
前橋工科大学	26	18	69.2%
愛知工業大学	25	17	68.0%
大阪市立大学	25	13	52.0%
中央工学校	24	15	62.5%
千葉工業大学	24	13	54.2%
名古屋大学	24	13	54.2%
熊本大学	23	16	69.6%
摂南大学	23	13	56.5%
大阪大学	23	11	47.8%
福井大学	21	11	52.4%
室蘭工業大学	20	13	65.0%
福岡大学	20	12	60.0%

(平成28年12月15日現在)

平成24~28年度(過去5年累計)の
各年度における卒業生合格者20名以上
の学校出身合格者の6割以上は
総合資格学院受講生です。
平成24~28年度の各年度における卒業生合格者20名以上の
学校出身合格者合計10,777名中/総合資格学院受講生合計6,605名



平成28年度
1級建築士設計製図試験
卒業生合格者20名以上の
学校出身合格者 1,891名中/総合資格学院受講生 1,110名



※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。 ※総合資格学院の合格者数には、「2級建築士」等を受験資格として申し込まれた方も含まれている可能性があります。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※総合資格学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。



総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2新宿野村ビル22F 【スクールサイト】 www.shikaku.co.jp

総合資格

検索

TEL. 03-3340-2810

【コーポレートサイト】 www.sogoshikaku.co.jp

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士
設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級
管工事施工管理技士

1級・2級
建築施工管理技士

1級・2級
土木施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア
コーディネーター

【法定講習】 監理技術者講習/一級・二級・木造建築士定期講習/管理建築士講習/宅建登録講習/宅建登録実務講習/第一種電気工事士定期講習



第17回

住宅課題賞 2017

建築系大学住宅課題優秀作品展

開場日時

2017年11月21日(火)-11月29日(水)10:00~18:00

日曜休館

会 場

ギャラリー エー クウッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店東京本店1F

<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A⁴

